

「広報写真のポイント」で機材の事前確認をお願いします







30・5・30 愛知県市町村振興協会 研修センター

□広報写真セミナーに参加の皆様へ□

以下の項目を事前に移動変更できるように確認してください。

使用説明書を見ながらの設定は、専門用語が多く撮影に慣れないと難しいと思います。広報課の先輩に聞きながら設定場所の確認をしてください。設定移動ができない場合には、当日説明しますが、カメラの使用説明書をお持ち下さい。

※測光モード

総称	ニコン系	キヤノン
「多分割測光」	マルチパターン測光 	評価測光 
「中央部測光」	中央部重点測光 	部分測光 
「スポット測光」	スポット測光 	スポット測光 

機能説明 適正露出を測光する測光モードは、被写体に当たる光の方向で切り替えます。
 広報写真は、マルチパターン・評価測光と中央部重点・部分測光の2種類を使用します。
 「多分割測光」は、ファインダー全体の平均値を測光します。
 「中央部測光」は、ファインダー内の8%を測光します。
 「スポット測光」は、ファインダー内の2~3%を測光します。

設定場所
 メーカーにより名称が異なります。
 多分割測光（総称）は、マルチパターン測光（ニコン系）、評価測光（キヤノン系）、マルチ測光（ソニー）、分割測光（ペンタックス）、ESP 測光（オリンパス）」と呼びます。
 中央部測光（総称）は、中央部重点測光（ニコン・ペンタックス・パナソニック・）、部分測光（キヤノン）中央部重点平均測光（ソニー・オリンパス）と呼びます。
 両方の設定ができるように確認してください。この実習では多分割測光を使用します。

※フォーカスモード（AF）

	ニコン系	キヤノン系
□シングルオートフォーカスモード		
シングルオートフォーカス	AF-S	OEN SHOT
コンティニューオートフォーカス	AF-C	AI SERVO

機能説明 被写体の動きによってピントの合わせ方を変更する機能です。
 ＊シングルオートフォーカスの「AF-S」「ONE SHOT」は、動きの少ないスナップ撮影に適したフォーカスモードです。ピントが合うとピントが固定されるフォーカスロック機能があり、1点でピント合わせるための必要な機能です。露出モードの絞り優先オート「A」「Av」と組み合わせます。
 ＊コンティニューオートフォーカス（レリーズAF）の「AF-C」「AI SERVO」は、動きのある被写体に適したフォーカスモードで、シャッターを押すまでピントを合わせ続けてフォーカスロックされません。露出モードをシャッター優先オート「S」「Tv」と組み合わせます。

設定場所 シングルオートフォーカスモードは、1点のフォーカスポイントでピントを合わせます。フォーカスポイントの移動は、シングルオートフォーカス「AF-S」（ニコン系）「ONE SHOT」（キヤノン）に設定してから、ボディー背面にある「フォーカスマルチセレクター」（ニコン）「AF フレーム選択ボタン」（キヤノン）で移動ができます。ピントを合わせるフォーカスポイントを中央にして下さい。

※露出モード

■露出モード	ニコン系	キヤノン系
プログラムオート	(P)	(P)
絞り優先オート	(A)	(Av)
シャッター優先オート	(S)	(Tv)
マニュアル露出	(M)	(M)

機能説明 この講義では、優先オートを使った講義を行います。動きの少ないスナップ撮影は、絞り優先オートに、スポーツのように動きのある被写体はシャッター優先オートにします。

設定場所 ボディー上にある露出モードの切り替えダイヤルで、また、「MODE」(ニコン) ボタンでの変更は、MODEボタンを押してコマンドダイヤル(ニコン) 電子ダイヤル(キヤノン)を回転して変更します。

絞り値の変更と設定
露出モードを絞り値優先オート「A」(ニコン系)「Av」(キヤノン系)にすると絞り値が変更できます。サブコマンドダイヤル(ニコン系) やサブ電子ダイヤル(キヤノン系) で、絞り値を「F11」と「F5.6」に変更できるように確認してください。

シャッタースピードの変更と設定
露出モードをシャッター優先オート「S」(ニコン系)「Tv」(キヤノン系)にするとシャッタースピードが変更できます。メインコマンドダイヤル(ニコン系) やメイン電子ダイヤル(キヤノン系) で、シャッタースピードを「1/30 秒」と「1/250 秒」に変更できるように確認してください。

□その他の設定


※ISO感度の設定と変更

ストロボの天井バウンスが最初の撮影実習になります。「ISO400」に設定してください。

※「画像モードと画質モード」

画質モードは画像を保存するファイル形式で、画像の圧縮率を決めるものです。画像サイズは、記録する画像の大きさを決めるものです。

最終媒体が印刷では、「JPEG」で画質モードを「FINE」(ニコン)  (キヤノン) に、画像サイズは繊細な画像を作るように「L」にします。

※作動モードの設定：連続撮影(連写)  あるいは「CH」(ニコン) に設定してください。

※ストロボについての注意点

デジタル専用ストロボでもニコンは、カメラによって同調しない(発光しない)機種があります。

下記の手順で設定とチェックポイントを確認してください。

ストロボの発光モードは、「A」「M」「TTL」があります。設定は、ストロボの裏面にある表示パネルで、「TTL」(一般的)「i-TTL」(ニコン)、「e-TTL」(キヤノン) に設定してください。

出かける前にテスト撮影をお願いします。

ストロボをカメラに取り付け、露出モードを絞り優先オートにして絞り値を「F8」にします。

被写体にストロボの発行部を向けて撮影してください。

明るくオーバーや暗くアンダーに写るようでしたら、ストロボをカメラから取り外してもう一度しっかりと取り付けて撮影してください。それでも変わらなければ他のストロボでテスト撮影してください。それでもだめなら当日に確認します。

※当日は、《A設定》に設定してください。

□被写体による撮影モードの組み合わせ設定です。

	測光モード	+	露出モード	+	フォーカスモード
《A設定》	スナップ撮影に適した組み合わせ				
ニコン系	マルチパターン測光		(A)		AF-S
キヤノン系	評価測光		(Av)		ONE SHOT
《B設定》	動きのある撮影に適した組み合わせ				
ニコン系	マルチパターン測光		(S)		AF-C
キヤノン系	評価測光		(Tv)		AI SERVO
《C設定》	薄暗い場所で手振れを起こす恐れがあるスナップ撮影				
ニコン系	マルチパターン測光		(S)		AF-S
キヤノン系	評価測光		(Tv)		ONE SHOT

※撮影実習では、A・B設定を使います。変更ができるようにして下さい。

※実習当日は天井バウンスから始まります。設定をA設定にしてISO感度「400」にして下さい。

□撮影実習の機材について

※カメラとレンズ

日頃使用しているカメラをお持ち下さい。

レンズは18～70mm以上200mmがベストです。標準ズーム24・28～70mmでも問題ありません。

18～55mmと70～200mmの2本を使用している場合は、2本持ってきてください。

1本しか持参できない場合は、18(28)～55mmを持ってきてください。

※外付けのストロボをお持ちください。

ストロボ撮影は、撮り方により背景に被写体と同じ影が出て見苦しい写真になります。天井バウンスの撮り方をマスターします。そのため、発光部が左右上下に回転するストロボを用意してください。

電池の予備を準備してください。

※コンパクトフラッシュ：250～300カット程度撮影できるものを準備してください。

※カメラのバッテリー：実習ではモニターチェックが多くなります。フル充電して予備のバッテリーがあれば持参してください。

講義終了後、広報写真クリニックを行います。

希望される方は、ご自分が撮影した広報紙をお持ちください。